

加藤のコラム

第13号（2016年9月）



私、いまだガラケーでございます。iPad もいいふりこいて使っていますが、ガラケーはしぶとく維持しております。しかし、先日、そのガラケーをなくしてしまうというできごとがございました。恥ずかしながら、今までの人生において、携帯をなくしたことは2回あり（うち1回は見つかりました）、今回で3回目でした。ちなみに財布をなくしたことも2回ありまして、これは2回とも見つかっております。情けないことにいずれもお酒をたしなんでいるときのことであります。これだけなくしていても、完全紛失は1回だけというりっぱな成績を積み重ねてきております。で、今回3回目の携帯紛失だったのですが、5日たっても出てこなくて、「これはまあスマホにしろということなんだな」と心に決め、携帯ショップへと行きました。加藤家はけちくさいので、娘の学割を使ってボクが携帯を持っていたため、娘が大学を卒業しても名義は娘のまま。娘の委任状をもらわないといけないのですが、紛失経験豊富なのでそこは事前に送ってもらって抜かりなし（彼女は東京にいるので）。で、iPhoneにするかAndroidにするかの説明を受け、Androidにしようと思ったら店員さんが「あれ、娘さんの住所が函館のままですね（函館に住んでいたときに携帯契約していた）。これは娘さんがまず住所変更しておかないと契約できないですね」とおっしゃる。前に紛失したときはそこまで厳密じゃなかったはずなのにと思いつつも、契約できないものは仕方ないので、あきらめて帰ってきました。

そうしたら、その翌日、警察署から電話があり「携帯見つかりました」。タクシーの運転手さんが届けてくださったのですが（確かにその日タクシー乗った記憶がある）、すぐに警察署に取りに行き、二つ折り携帯の着信やメールをチェックしたあと、携帯を再び見たら、疲れこけて眠るかのように携帯の表示が消えました（充電が0になった）。「ガラケーくんも不安で仕方なかったけれど、ようやく帰ることができてほっとして眠ったんだな」と思えるようなドラマチックな消え方でした。この光景を見てしまうと、携帯を変えるのは人としてどうなんだろうと思ってしまって、壊れるまで添い遂げようと決心したしだいです。マナーモードにしてもブルブルしないし、液晶画面は端が白くなっているし、壊れかけているのは間違いないのですが、手放したらバチが当たる気がします。タクシー会社にお礼をしに行ったときも、「こういうことがありまして…」とこの経緯を熱く語ってしまいました。

というわけで、ボク、まだまだずっとガラケーです。えー、ついでに別件ですが、昨年に引き続き、余市味覚マラソン大会に出て10kmコースを走ってきました。昨年より5分タイムが遅くなっておりましたが、加齢とほとんど練習していないせいです。へろへろでゴールしました。



文責：加藤 潔